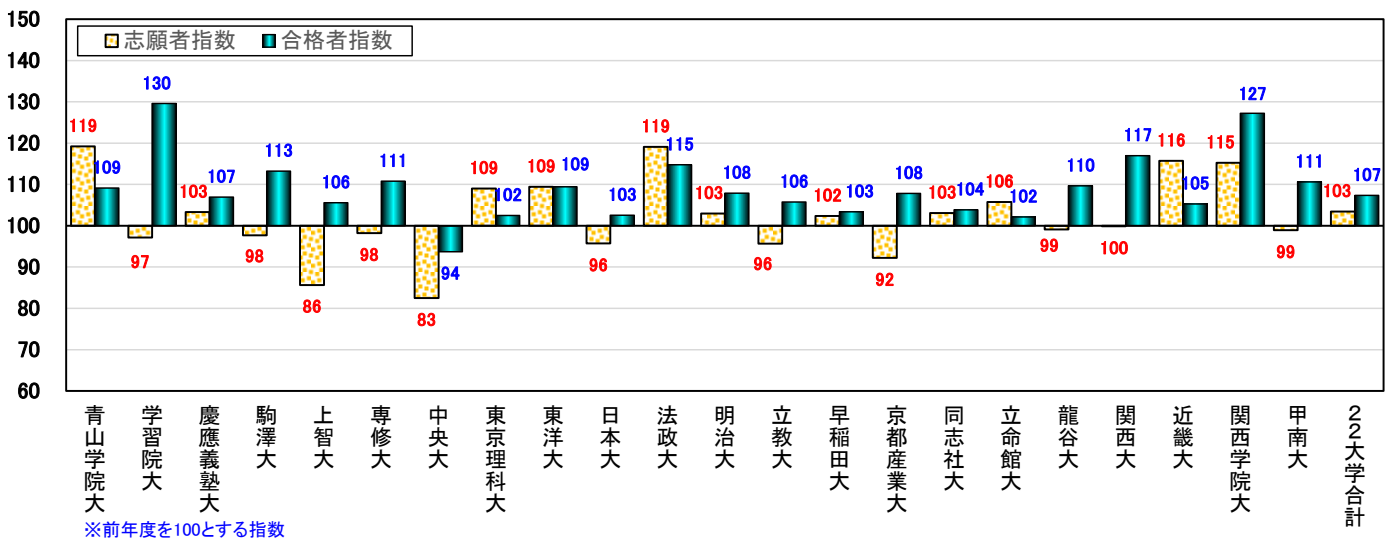


※本文中の()内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

◎主要私立22大学 入試結果概況

大学	2022年度		2021年度		増減数		志願者指数		合格者指数	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	2022年度/2021年度	2021年度/2020年度	2022年度/2021年度	2021年度/2020年度
青山学院大	47,839	10,787	40,123	9,884	+7,716	+903	119	69	109	120
学習院大	16,621	4,911	17,108	3,790	-487	+1,121	97	101	130	104
慶應義塾大	37,894	9,975	36,681	9,327	+1,213	+648	103	95	107	109
駒澤大	29,201	10,339	29,902	9,130	-701	+1,209	98	104	113	112
上智大	22,503	7,153	26,270	6,776	-3,767	+377	86	100	106	124
専修大	46,547	15,119	47,381	13,650	-834	+1,469	98	93	111	118
中央大	64,795	18,585	78,534	19,829	-13,739	-1,244	83	91	94	116
東京理科大	53,752	16,990	49,301	16,579	+4,451	+411	109	87	102	105
東洋大	98,276	30,341	89,808	27,731	+8,468	+2,610	109	88	109	103
日本大	93,770	36,648	97,948	35,737	-4,178	+911	96	86	103	105
法政大	108,343	22,986	90,956	20,033	+17,387	+2,953	119	88	115	108
明治大	102,426	26,688	99,470	24,732	+2,956	+1,956	103	97	108	111
立教大	62,646	15,501	65,475	14,659	-2,829	+842	96	107	106	121
早稲田大	93,843	15,021	91,659	14,532	+2,184	+489	102	88	103	100
京都産業大	37,735	12,227	40,925	11,340	-3,190	+887	92	73	108	115
同志社大	45,854	16,412	44,481	15,804	+1,373	+608	103	89	104	103
立命館大	88,335	32,627	83,512	31,943	+4,823	+684	106	81	102	103
龍谷大	55,880	19,553	56,379	17,835	-499	+1,718	99	106	110	141
関西大	79,394	22,011	79,510	18,815	-116	+3,196	100	91	117	116
近畿大	157,171	39,464	135,830	37,484	+21,341	+1,980	116	93	105	110
関西学院大	38,737	15,829	33,617	12,444	+5,120	+3,385	115	101	127	149
甲南大	14,662	5,711	14,823	5,163	-161	+548	99	78	111	114
22大学合計	1,396,224	404,878	1,349,693	377,217	+46,531	+27,661	103	90	107	111

◇指数は、いずれも前年度を100とする数値を表す。



上のグラフと表は、2022年度入試における主要私立22大学の大学別入試結果をまとめたものです。

□志願者数の増減は11大学ずつに分かれる

志願者数が、前年度より増加しているのは、青山学院大(119)、法政大(119)、近畿大(116)、関西学院大(115)が大幅増加、東洋大(109)、東京理科大(109)が増加、立命館大(106)、慶應義塾大(103)、明治大(103)、同志社大(103)がやや増加となりました。

一方で、中央大(83)は大幅減少、上智大(86)、京都産業大(92)は減少、立教大(96)、日本大(96)、学習院大(97)がやや減少となりました。なお、22大学中の増減は11大学ずつと同じ大学数となりました。

以下に、増減が目立った大学について、その要因を探ってみます。青山学院大は前年度に共通テスト併用方式導入を中心とした大きな入試改革を行いました。コロナ禍の中で受験生にあまり理解されずに敬遠されたことで志願者数が大きく減少しましたが、今年度は受験生への周知が進んだことで大幅に増加しました。しかし、前年度の31%減少の回復には至らず、新しい入試方式が学力の低い層には敬遠されているようです。法政大は前年度併願校数の絞り込みの影響で志願者数が減少しましたが、共通テストの平均点ダウンによって不安を持った受験生が一般方式への駆け込み出願をしたこともあって増加し、志願者数は10万人を上回りました。近畿大は新設の情報が1万2千人以上の志願者数となったほか、既存学部のみでも7%増加で、特に3年連続減少していた一般方式の増加が目立ち、志願者数は15万人を上回り、9年連続で全国最多の志願者数となりました。

一方で、中央大は一般方式では前年度並でしたが、共通テスト利用方式や英語外部試験利用方式で入学検定料の値上げや併願に伴う特例措置の変更による負担増の影響で、志願者数が減少しました。上智大は実施2年目となった共通テスト利用方式が大幅減少しました。京都産業大は系統への人気が低い外国語の20%以上の大幅減少が影響しました。

方式別では、一般方式(105)のやや増加に対して、共通テスト利用方式(101)は前年度並です。私立大全体(545大学集計)では一般方式(100)、共通テスト利用方式(100)と前年度と変わらないので、主要私立22大学では一般方式の志願者数が多くなりました。これは、共通テストの平均点ダウンにより国公立大併願者が多い主要私立22大学の一般方式への出願が増加している影響です。

なお、主要私立22大学で志願者数が10万人を上回っているのは、近畿大、法政大、明治大の3大学のみでした。東洋大も出願締め切り近くに志願者数を伸ばしましたが、早稲田大を上回ったもののわずかに10万人に届きませんでした。

□合格者数は中央大を除く全ての大学で増加

合格者数は、中央大を除く全ての大学で増加し、主要私立22大学合計(107)で4年連続増加となりました。しかし、合格者数が2千人以上増加した大学が前年度の8大学から4大学に、15%以上の大幅増加だった大学は、前年度の9大学から4大学にそれぞれ減少しました。

大学別では、学習院大(130)が1,121人、関西学院大(127)が3,385人といずれも25%以上の大幅増加でした。前年度5千人を上回る合格者を発表した龍谷大(110)は、今年度も1,718人の増加でした。一方で、「入学検定料の特例措置」を廃止した中央大(94)は、主要私立22大学で唯一合格者数を絞り込み1,244人の減少でした。

「合格者指数-志願者指数」の数値で見ると、前年度+50ポイントと最も数値が大きかった青山学院大は-10ポイント、近畿大も-10ポイントでした。一方で、前年度+3ポイントで最も数値が小さかった学習院大が+32ポイントで最も数値が大きく、次いで上智大が+20ポイントと大きく、競争が緩和されました。

なお、今年度はコロナ禍対応として追試験等の実施が文部科学省から通達されたため、合格発表が遅くなる大学が多かったです。